

# 第8回中部地域半導体人材育成等連絡協議会

2025年12月8日

経済産業省 中部経済産業局

(中部地域半導体人材育成等連絡協議会 事務局)

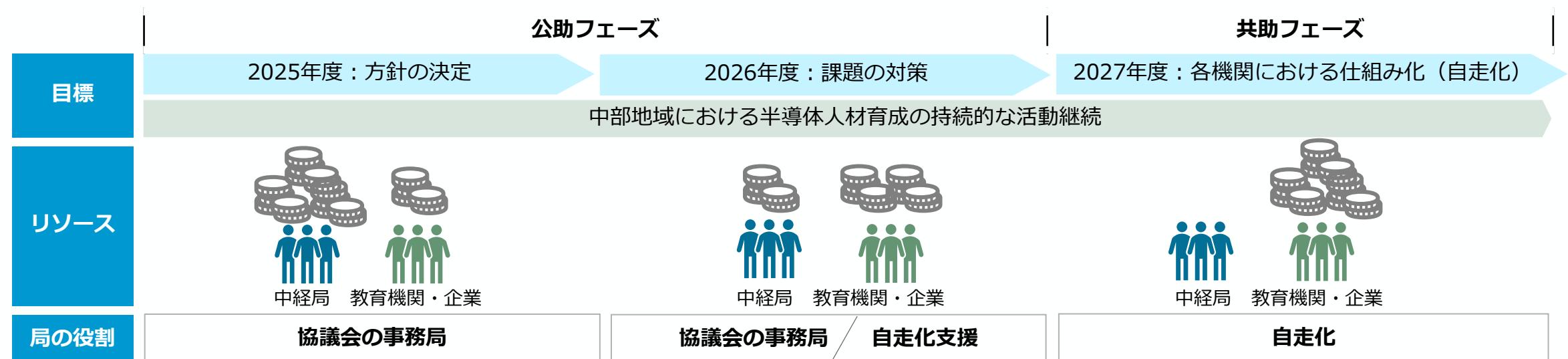
# アジェンダ

1. 第1回在り方検討WGの結果の共有と今後の検討事項
2. 令和8年度事業の具体的な取組内容
3. 産業クラスター施策について
4. その他

# 1. 第1回在り方検討WGの結果共有と 今後の協議会の活動領域・運営体制について

# 協議会の自立化・自走化について～公助から共助へ

- 半導体人材育成については、そのメリットを受ける産業界の積極的な関与が重要。このため、個社単位で、大学等からのインターン受入の拡大や大学等との人材育成に資する共同研究開発等の取組（自助）を推進していくことが重要。
- 一方で、人材育成は、その効果が一事業者・地域に閉じないスピルオーバー効果を有することから、自助のみでは、産業界全体として必要十分な取組がなされないと考えられる。
- このため、これまで、活動費を国が負担する形で、産学官連携による各種取組を実施中（公助）。一方で、公助のみに依存した取組は、サステナブルではないと考えられるため、関連する産業界全体としての「共助」の取組を推進していくべきではないか。
- なお、2027年度以降も当面の間、中部経済産業局はこれまで同様、積極的に関与・貢献する。



# 在り方検討WGの進め方

## 在り方検討WGメンバー

産 (5)	学 (6)	官 (2)
株式会社デンソー	イビデン株式会社	名古屋大学
キオクシア株式会社	東芝デバイス＆ストレージ株式会社	三重大学
タワーパートナーズセミコンダクター株式会社	富山大学	豊橋技術科学大学 金沢工業大学 鈴鹿工業高等専門学校

## 検討事項

今後の進め方 イメージ	第1回WG (10/28)	<b>【活動目的（役割）と体制の検討】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・東海及び北陸コンソとの棲み分けと、協議会が担うべき領域・運営体制の検討</li><li>・参画機関の拡大の可否について検討</li></ul>
	協議会 (12/8)	<b>【中間報告・活動内容の検討】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・第1回WGの議論を取りまとめた結果を報告</li><li>・今後の具体的な活動内容の検討</li></ul>
	第2回WG (1/23)	<b>【新体制への移行プロセスの検討】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動内容や今後の運営体制を踏まえ、どのようなプロセスで新体制への移行を図っていくか検討</li><li>・今後の具体的な活動内容の検討（継続）</li></ul>
	協議会 (3/3)	<b>【最終報告】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・第2回WGの議論を取りまとめた結果を報告。</li><li>・最終方針の決定</li></ul>
	2026年度	<b>新体制への移行期間</b> (必要に応じて、追加議論や会員拡大の場合は拡大先と調整など)

# 協議会設立後の内部環境と外部環境の変化

- 協議会の存続には賛同が得られている一方、設置当時と状況が変化しているため、中部地域の実情に即した自立・自走の仕組みを検討する必要がある。

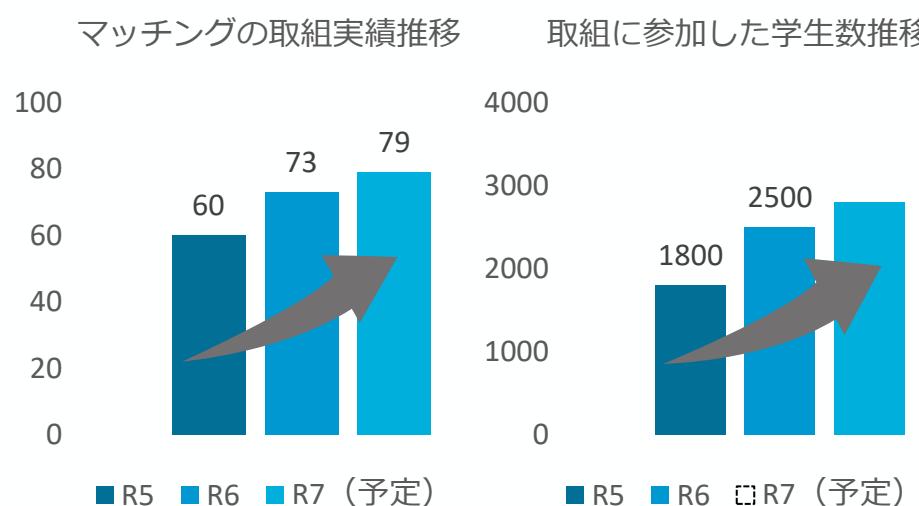
## 内部環境の変化

約2年間の活動で、产学研連携の取組が多数創出され、地域に人材育成の基盤が形成されつつある。

## 外部環境の変化

教育機関を中心に東海及び北陸地域において半導体人材育成の取組が進展。

### 产学研連携による取組の拡大



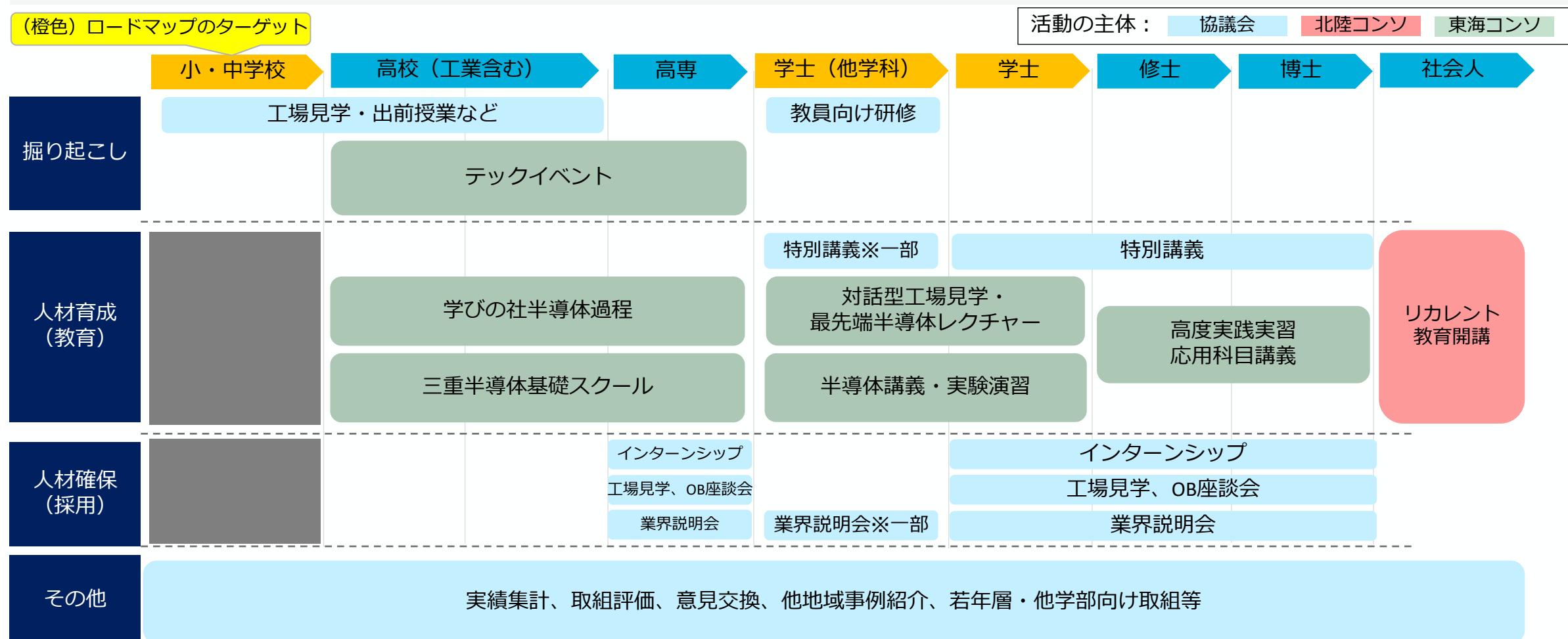
### 半導体人材育成の取組主体の増加

- NEW** 東海地域半導体実践人材育成拠点（2025年度～）
- NEW** 北陸半導体コンソーシアム（2025年度～）
- みえ半導体ネットワーク（2023年度～）

東海地域半導体実践人材育成拠点（資料2）  
及び  
北陸半導体コンソーシアム（資料3）  
のご紹介

# 参考：各コンソの活動領域について

- 過去の取組実績や他コンソーシアムの計画をインプットし、協議会の取り組む領域を再整理する必要がある。
- 特に、ロードマップ策定時には他コンソが存在せず重複がなかったが、現在は一部重複があるため見直すことも検討。



# 第1回WGでの意見と今後の活動・運営方針（案）

## 意見

### 1. 今後の活動について

- ・参画機関同士で関係性が構築され、事務局によるマッチング無しでも、従来の取組を実施可能（事務局機能は最小限で良し）。
- ・現在協議会で行っている産学連携の取組は東海及び北陸コンソが引き継ぐ形でよいのでは。その代わり、企業リソースを協議会ではなく、各コンソに重点的に充てるべき。
- ・中部地域内の半導体人材育成に関する取組の実績集計や評価等を通じて、全体俯瞰をしてほしい。
- ・他地域の先進事例や他機関のイベント紹介など、単独では実施出来ない部分を今後も期待したい。
- ・今後求められる半導体人材像について、定期的に産業界と教育機関で意見交換を実施したい。
- ・若年層向けの取組に関して
  - ・採用に直結しないことから、社内理解を得られにくく、実施しづらい（既に他部署で実施済み）。
  - ・直接小中学生にアプローチをするのは難しく、市や県の協力が不可欠。また、半導体企業以外に幅広い業種でアプローチが必要。

### 2. 協議会運営について

- ・東海及び北陸コンソとの棲み分けを意識したい。重複した取組に、リソースを割くことは避けたい（企業）。
- ・人材リソースの捻出は、予算リソースよりもハードルが高く、現実的ではない（企業）。
- ・国が運営することに意義があり、令和9年度以降の予算確保が叶わなくとも、従来どおり中部経済産業局が事務局を担ってほしい。

## 事務局案

### 【議論パート1】

（全員）協調領域に認識齟齬はありませんか。

### 3. 上記意見を踏まえた、今後の活動と運営方針について

- ・協議会は、中部地域内の半導体人材育成に係るコンソーシアムを束ね、全体を俯瞰しながら調整する中核的な役割を果たすこととし、企業と教育機関（教育委員会含む）、他地域コンソーシアム、各種団体等との結節点としての機能を果たす。
- ・『協調領域』に取り組むこととし、従来の協議会で行っている産学連携の取組は、東海及び北陸コンソや企業独自の活動に委ねる。  
(協調領域：実績集計、取組評価、意見交換、他地域事例紹介、若年層・他学部向け取組等)
- ・協議会では事業実施に係る予算を持たないこととし、実際の取組にあたっては東海及び北陸コンソまたは企業内の予算を確保いただく。

# 第1回WGでの意見と今後の参画機関の拡大（案）

## 意見

### 1. 参画機関の拡大について

- ・目的にもよるが、選択肢（連携先）が増えることは、メリットが多くあるのでは。他方、参加者が増えると目線合わせが難しくなるため、議論と情報共有の二段構えとする等、体制面は要検討。
- ・企業の拡大については、教育機関との取組を行うリソースを持ち、現在の参画機関が採用のメインターゲットとなるような企業を想定。
- ・東海コンソでは企業との連絡会を立ち上げる予定で、企業も幅広く参加予定。連絡会との重複を避けるため、協議会には一定の採用数がある大きめの企業に入ってもらえばよいのでは。

## 事務局案

### 【議論パート2】

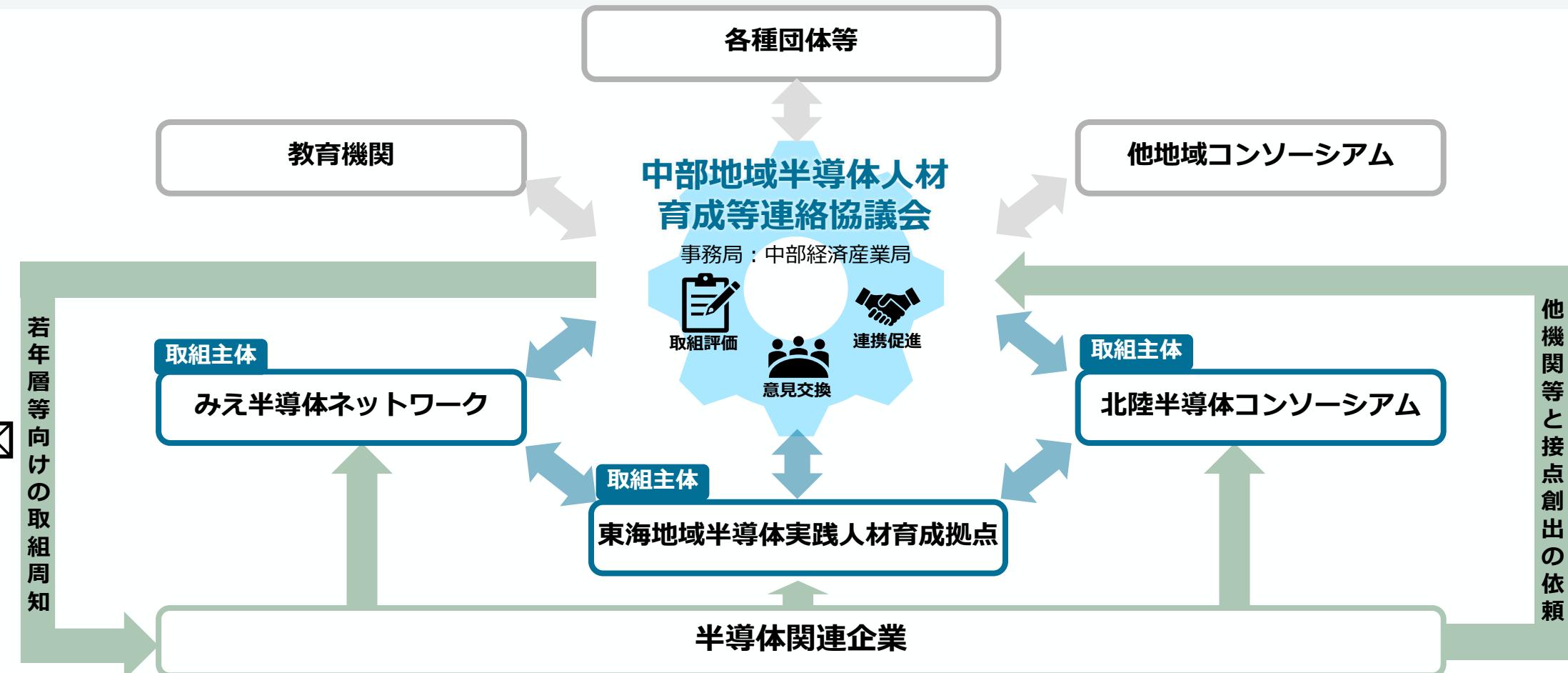
(全員) 参画機関を拡大すべきと思われる場合、想定される目的とともにご発言をお願いします。

### 2. 上記意見を踏まえた、参画機関の拡大について

- ・参画機関の拡大については、前向きな意見が多数あったが、その目的は取組数の増加や活動の幅の広がりを期待するものであり、協議会から各コンソ参画企業への情報提供の仕組みを整えることで対応可能ではないか。
- ・今後、産学連携事業の主体が各コンソーシアムに移ることを踏まえると、現時点で協議会の会員数を増やす意義は限定的であり、現状維持でどうか。
- ・一方、取組評価の際に幅広い業種（部素材・製造装置メーカー等）の意見を取り入れる必要がある場合は、数社の追加加入も検討。

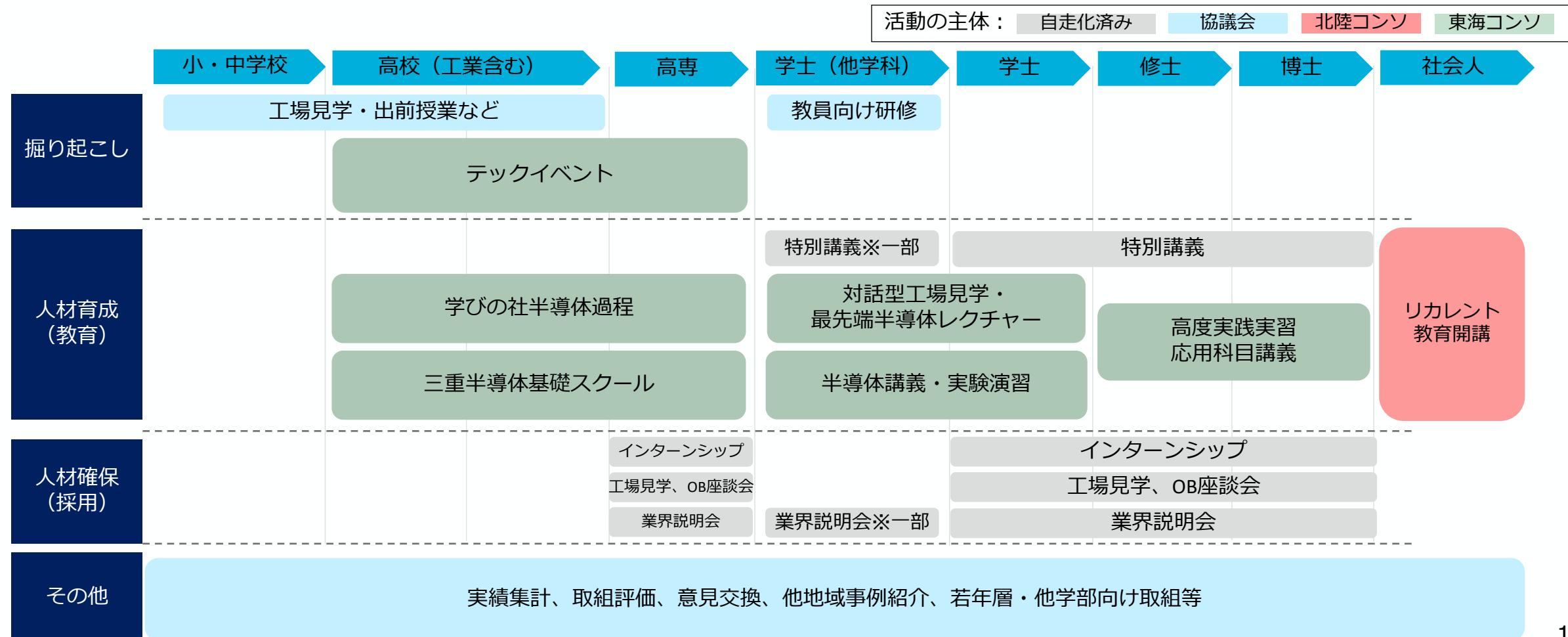
# 中部地域における半導体人材育成の推進体制（令和9年度以降）案

- 協議会は、企業と教育機関、他地域コンソーシアム、各種団体等との結節点としての機能を果たす。
- 特別講義や工場見学等の具体的な人材育成の取組は各コンソーシアム（青枠）を実施主体とする。



# 各コンソーシアムにおける活動領域案

- これまでの協議会活動は自走化済み（灰色）と位置づけ、従来の関係性を活かした産学連携事業を引き続き実施。



## 2. 令和8年度の具体的な活動内容

# 令和8年度事業内容の検討

## 【議論パート3】

- ・それぞれ実施希望の取組があれば、R 8年度は国予算を活用することが可能。
- ・協調領域の従来の取組においても改善に資する意見があれば是非お願いします。

- ・ 令和8年度は、地域コンソーシアムへの予算配分の最終年度。協議会の活動方針（協調領域）に沿った事業や各機関の人材育成事業を加速化させる事業の実施を想定。
- ・ 今回意見を募り、次回在り方検討WG（1/23）までに、実施事業の概要や費用の大枠を取りまとめたい。

## 協調領域の取組

### 以下、想定例

#### 実績集計

中部地域内で取り組まれた産学連携事業の集計

#### 取組評価

実績集計や各コンソーシアムの取組を俯瞰し、評価（次年度以降の取組の参考）

#### 意見交換

今後の必要な半導体人材像について、産学による意見交換

#### 他地域事例紹介 \*謝金必要なケースあり

他地域とのオンライン勉強会

#### 若年層・他学部 向け取組検討

工場見学、特別講義、教員向け研修等

▲予算不要

▼予算必要

## 各機関の人材育成事業を加速させる取組

取組を実施することで、対象層を広げたり、将来の自立化・自走化に繋がるような取組であること。

«例» \*あくまでイメージです。

- 将来的に自立化を見据えられる事業であり、来年度は試行的に実施する取組（工場見学等）
- 学習キットや教材、動画等の作成
- 取組の方向性や目標設定を検討するための調査
- ✗ 対象・内容ともに新規性の無い取組

### 3. 産業クラスター施策について

## 4. その他